■廃棄物分野ワーキングチーム

	講演テーマ	概要	主な意見(有識者等)
1	企業における廃棄物対策 ～3Rの進め方について～	**【3Rを進める理由】** ・SDGs（持続可能な開発目標）には、廃棄物発生の削減が盛り込まれている。 ・3Rを進めることにより、CSR（企業の社会的責任）が向上する。廃棄物の減量、再使用化はCSRの指標のひとつになっている。 ・3Rを進めることにより、処理費用が削減される。例えば、混合廃棄物 1,000 t を処理する場合に3,800 万円かかるが、廃プラ・木くず・紙くずに分別すると年間 1,500 万円まで押さえられたという例がある。 **【3Rの進め方】** ・会社として3Rを進める上で社員への周知の方法で悩む企業が多いが、社内体制を整備することが必要。 ・指揮系統を明確にするため、管理部署を設置し、分別ルールの作成、周知などを責任者を置いて行うことが重要。 ・これまで混合物として排出していたものを分別して排出する場合、社内でのコミュニケーションや合意形成が必要となり、管理部門や責任者が主導することで進めやすくなる。 ・管理部門を設置後は、どのような廃棄物がどの部署からどれだけ排出されているのか実態把握し、削減できる廃棄物や排出方法、処理方法（料金）の見直しをしていくという流れになる。 **【3Rを進める際の事例】** 《事例1》 ・集積所に部署毎の廃棄物の重量・種類を記録する記録簿を設置。 ・計量器のデータを自動的に記録し、管理するソフトを使用すると、廃棄物の情報が一目瞭然となり、分別精度の向上等が期待でき、3Rを進めていく手段として活用できる。 《事例2》 ・ゴミを捨てる日を月一回として、自分の周りにどれだけゴミがたまるか意識させる活動実施 。 《事例3》 ・分別のフロー図、廃棄方法等が記載されたごみ分別辞典の作成。 《事例4》 ・ゼロエミの取組みが一目で分かるパンフレットを社内に掲示。 《事例5》 ・従業員から3Rに係る意識啓発の標語を集め、作業場入口のマットに貼付。 《事例6》 ・分別ボックス上部の目線の高さに、分別項目を書いた看板を掲示。 ・廃棄物の種類ごとに色分け。 《事例7》 ・新たなリサイクルルートの開拓	・一般社団法人京都府産業廃棄物3R支援センターは産業廃棄物税（最終処分場に埋立処分する際に1トンあたり1,000円課税）で運営されている。制度開始直後に比べて、産業廃棄物の最終処分量は4割まで削減されている。（26万トン（H17）→11万トン（H27））産廃税の効果だけではないが、京都府の産業廃棄物の最終処分量は確実に減ってきている。 ・一般社団法人京都府産業廃棄物3R支援センターでは、①ゼロエミッションアドバイザー派遣事業、②情報提供事業（情報冊子の発行、無料配布）、③補助金事業、④人材育成事業など実施している。 中小企業を支援するため、講師やゼロエミッションアドバイザーを無料で派遣し、法改正を含め、3Rのポイントなどの説明や、紹介を行っている。 積極的な活用をお願いしたい。 ◇一般社団法人京都府産業廃棄物3R支援センターのホームページ http://www.kyoto-3rbiz.org/ ・京都府では、IOT、AIの観点で、廃プラスチック類を対象に、廃棄物の量をセンサーで確認し、どのルートで回収すれば積載率が高い状態で効率的に運搬できるかというモデル事業を行っている。実用化し、リサイクルの促進につながることを期待している。
	事例発表テーマ	概要	主な意見(有識者等)
2	企業における廃棄物の減量化・リサイクルの取組事例	**【廃棄物処理に対する企業の意識】** ・産業廃棄物で重要となるのが排出事業者責任であるが、ISOやKESの取得など環境への取組みに積極的な企業は廃棄物への意識が高いものの、トップが事業経営に追われているなどで消極的な企業は、廃棄物処理が処理業者任せになりがちである。 ・廃棄物処理の改善に取り組む視点として、処理費用の削減と企業の社会的責任がある。 ・以前は、廃棄物を担当する社員が低く見られることもあったが、企業の環境意識の高まりで、高い評価が得られるようになってきている。 ・産業廃棄物の処理委託の際、契約書・マニフェストを作成するが、処理業者の側に不備があることもある。排出事業者の側からは言いにくいこともあると思うが、良い処理業者を育てるのは排出事業者であり、積極的に働きかけていただきたい。 **【廃棄物の減量化・リサイクルの取組事例】** 《事例1》 ・金属くず、紙くずを有価売却し、その他は焼却、埋立て処理していたが、社員教育を1年かけて行い、分別を推進。 ・分別により、それまで処分していたものを再資源化したり、収集運搬を自社に切り替えるなど改善を行い、廃棄物の発生抑制、有価物化により数百万円の処理費用を削減。 ・この取組みにより、5Sが徹底されるようになり、社内がきれいになった。 《事例2》 ・それまでは、廃棄物処理を業者に丸投げしていたが、従業員を2班に分け処理場の見学に行くなど廃棄物について勉強。 ・金属くずを細かく分別することにより従来より2.3倍の売却高で有価物として排出。	・廃棄物は単にゴミだと認識している経営者も多いが、廃棄物は環境問題だと認識することで廃棄物の減量化・リサイクルへの意識が変化することもある。 ・廃棄物担当者にある程度職位のあるものをあてることで、組織を動かしやすくなる。 ・排出事業者と処理業者のパートナーシップが重要であり、ゼロエミッションアドバイザーは排出事業者の要望を処理業者に伝えたり、両者が同席して処理方法について助言する等している。ゼロエミッションアドバイザーの積極的な活用をお願いしたい。